

三世代ヘルシークッキング



8月17日(土)、三世代ヘルシークッキングが行われました。子供5人、ヘルスメイト2人、食改5人、保護者6人、計18名が参加しました。

はじめにサザエさん体操と朝食クイズをし、その後、家庭科室に移動し調理をしました。最後に、みんなで洋室でおいしくいただきました。



メニュー

おにぎらず、ズッキーニとにんじんの
ひらひらサラダ、豆乳カレースープ



小学校探検

8月9日(金)、阿尾保育園の5歳児6名が海峰小学校を訪問し、小学校生活を少し体験しました。

この活動は、「小1プロブレム」に対応し、保育園と小学校のつながりをスムーズにすることをねらいに行われました。子供たちは、海峰小学校に溶け込んでいました。

8月28日(水)には、灘浦小学校の探検が予定されています。



クロダイの放流

8月8日(木)、阿尾漁港でクロダイの放流がありました。

県栽培漁業センター2名、阿尾漁業管理委員会6名、氷見市水産振興課1名、氷見漁協2名が参加し、12,600匹のクロダイの稚魚を放流しました。

氷見の海(富山湾)がもっと豊かな海になればいいですね。



* 公民館主事の独り言

やりたいことと、やりたくないことがあるとき、たいいてい人は、やりたいことを先にやり、やりたくないことは後回しにします。

しかし、自信のある人は逆です。やりたくない方を先に持ってきて、自分がやりたい方は、あえて後ろに持ってくるのです。本当はやりたくないのに、それを頑張って片付けることで、我慢強さや意志力が鍛えられますし、セルフ・コントロール能力を高めることもできます。これが自信につながるのです。

やりたくないことをあえてやることで、私たちは、見直すこともできます。
「なんだ、私ってやればできるんだ！」
「本当にできるなんて、自分でもびっくり」

※「自信をつける習慣」 内藤誼人著 明日香出版社 参照

やりたくないことを終えることで、すっきりした爽快感を味わうこともできますし、その後には好きなことができるというごほうびまでついてきます。ですから、好きなことは後回しにしたほうがいいのです。

心理学の実験で、小さな子どもに、マッシュマロ1個与え、「すぐ食べてもいいけれど、食べるのをちょっとだけ我慢できたら、もう1個あげるよ」と言われたとき、すぐ食べてしまう子どもより、我慢できる子どものほうが、その後の学習成績もよく、大人になってからも高い地位につくことが多い、という研究があります。

欲求や衝動を感じたとき、すぐそれを満足させようとしてはいけません。我慢できればできるほど、自信もついてくるのです。



○ 10月の講座案内

講座名	曜日	開設日	講師・責任者	時間	部屋
生け花 (池坊)	第1・3水曜日	2日 16日	西山栄津子	10:00～ 14:00	洋室
かな書道	第1・3月曜日	7日 21日	猶明 光華	13:00～	洋室
学童茶道& 百人一首	毎週木曜日	3日 10日 17日 24日 31日	学童支援員	15:00～	和室
手 芸	第3火曜日	15日	伏木あい子	13:30～	和室
潮華会(新舞踊)	毎週土曜日	5日 12日 19日 26日	大野 朝子	19:00～	和室
潮月会(新舞踊)	毎週金曜日	4日 11日 18日 25日	大野 朝子	13:00～	和室
囲碁サロン	毎週月・水曜日	2日 7日 9日 14日 16日 21日 23日 28日 30日		13:30～	和室
フラダンス	第1・3月曜日	7日 21日	東軒みさ子	19:00～	和室
常磐会書道教室	第2・4土曜日	12日 26日	名苗くみ子	10:00～	洋室

○阿尾公民館からのお知らせ

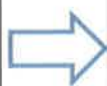
・ふれあいランチは、阿尾は10月12日(土)、指崎は10月18日(金)の予定です。

・令和6年度の阿尾公民館祭の日程の変更について

当初、公民館祭の予定を10月26日(土)・28日(日)とお知らせしていましたが、市役所より県知事選挙の可能性があると連絡がありました。そこで、公民館祭の日程を下記のように変更したいと思います。ご理解・ご協力の程、よろしくお願い致します。

変更前

10月26日(土)・27日(日)



変更後

11月2日(土)・3日(日)

※再度変更になる可能性あり

○おらっちゃん風土記

※氷見市史2 通史編 近・現代 参照



明治16年に建築された阿尾卓爾小学校

明治6年4月、太政官第貳百十四号に基づき第十二中学区小区内阿尾村、藪田村、杉村、北八代村、指崎村、森寺村、間島村之七ヶ村を以て一小学校を設置す。位置を阿尾村徳生寺堂宇内に定め、明治6年9月18日阿尾小学校と名づく。世話係 嶋尾三郎、井山清五郎の二氏に委託せらる。佃貢を教師として聘用す。生徒男103名、女4名を收容す。

阿尾地区の小学校の場合、氷見有数の網元や地主とそれとは対照的な貧しい漁民や小作人が混在する階層的格差の激しい条件下での開校であった。明治9年には、生徒数男60名、女0名と激減した。

明治初期の学校創設は、生徒の就学問題のほか、教師の雇用や校舎の建設などの問題があった。氷見のほとんどの地域は、無資格教員を充ててしのいでいた。学校発足期の教員は、在地寺院の僧侶がほとんどであった。それは、低い報酬でも生計を立てていける階層を見越しての苦心の策であった。また、校舎は寺院を借り上げたり、地主の家屋を教室に充てたりしていた。